

工業英語 (Technical English)		5 年・通年・1 学修単位 (β)・必修 電子制御工学科・担当 有本 享三	
〔準学士課程(本科 1-5 年) 学習教育目標〕 (2)	〔システム創成工学教育プログラム 学習・教育目標〕 D－1 (70%)、C－2 (30%)	〔JABEE 基準〕 d－2 a 、 f	
〔講義の目的〕 国際語である英語で技術情報を把握・伝達することは、エンジニアにとって不可欠な能力となっている。そこで、本講義では、工業の分野における英語での読解、作文および口頭発表の能力を養うことをその目的とする。			
〔講義の概要〕 工業の分野における英語の作文技法については、文法に基づく理解の他に習慣的な表現を学習することによって習得する。読解力については作文技法の学習の過程で習得する。口頭発表の技法については、国際会議で用いられている表現や手法に基づいて学習する。			
〔履修上の留意点〕 工業英語のベースとなるのは、これまでの学年で学習してきた英語の授業の内容である。したがって、それらについては本授業に先立って復習しておくことが求められる。			
〔到達目標〕 前期中間試験：基本事項、作文技法(1)－(4)およびその演習(1)に対する理解 前期末試験：作文技法(5)－(8)およびその演習(2)、さらに口頭発表技法(1)と(2)に対する理解 後期中間試験：作文技法(9)－(13)およびその演習(3)に対する理解 学年末試験：作文技法(14)－(16)およびその演習(4)、さらに口頭発表技法(3)と(4)およびその演習に対する理解			
〔自己学習〕 目標達成のために授業の復習を怠らないこと。特に文法については、これまでの学年での学習内容について復習して授業に臨むこと。工業分野に特有の用語については、授業だけではなく自己学習によって覚えること。			
〔評価方法〕 前期の中間と期末、後期の中間と期末の4回の試験(70%)だけでなく、数回の授業における小テスト(30%)の結果を総合して評価する。必要のある場合にはレポートを課し、その結果を考慮する。			
〔教科書〕 なし 〔補助教材・参考書〕 “科学英文技法”，東京大学出版会，兵藤申一；“科学英語の書き方・話し方”，丸善，井口道生； “理科系のための英語力強化法”，ジャパンタイムス，志村史夫；“科学英語の効果的な書き方”，“英語口頭発表の心得”，“国際会議のための英語”，丸善，小野義正；“理科系の作文技術”，中央公論社，木下是雄；英語表現に関するその他の書籍・論文・ソフト			
〔関連科目・学習指針〕 高専における英語授業全般			

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価*
第1週	ガイダンス	授業の方針，評価方法など	
第2週	基本事項	発音，スペリング，句読点，文字カウント，専門用語など	
第3週	作文技法（1）	報告書の構成（文とパラグラフ）	
第4週	作文技法（2）	文法：名詞	
第5週	作文技法（3）	文法：冠詞	
第6週	作文技法（4）	文法：時制	
第7週	作文技法の演習（1）	報告書の構成案	
第8週	総合演習（1）	第1週から第7週の内容の確認	
第9週	作文技法（5）	文法：接続詞	
第10週	作文技法（6）	文法：語句の順序	
第11週	作文技法（7）	文献とその引用，雑誌とその略称	
第12週	作文技法（8）	数，数式，単位，図の体裁	
第13週	作文技法の演習（2）	論理的で簡潔な文章	
第14週	口頭発表技法（1）	発表での英語表現（1）	
第15週	口頭発表技法（2）	パワーポイントの使い方	
前期期末試験			
第16週	ガイダンス	前期の内容と後期の方針の確認	
第17週	作文技法（9）	文法：助動詞	
第18週	作文技法（10）	文法：不定詞と動名詞	
第19週	作文技法（11）	文法：分詞と分詞構文	
第20週	作文技法（12）	文法：能動態と受動態	
第21週	作文技法（13）	誤りやすい否定表現	
第22週	作文技法の演習（3）	Eメール	
第23週	総合演習（2）	第16週から第22週の内容の確認	
第24週	作文技法（14）	類語の使い分け	
第25週	作文技法（15）	要注意の単語や句	
第26週	作文技法（16）	科学技術分野における特有の言い回し	
第27週	作文技法の演習（4）	報告書の事例	
第28週	口頭発表技法（3）	発表での英語表現（2）	
第29週	口頭発表技法（4）	質疑応答	
第30週	口頭発表の演習	発表の事例	
学年末試験			

* 4：完全に理解した， 3：ほぼ理解した， 2：やや理解できた， 1：ほとんど理解できなかった， 0：まったく理解できなかった。
 （達成） （達成） （達成） （達成） （達成）